

千賀健史個展

「まず、自分でやってみる。」

2024.3.6(水) - 4.14(日)

ご挨拶

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、2024年3月6日(水)より、千賀健史個展「まず、自分でやってみる。」を開催します。本企画はBUGの活動方針の一つである“キャリアの支援”に基づき、更なる発展を目指すアーティストに対し、その足がかりとなることを目的とした展覧会です。

千賀は第16回写真「1_WALL」にて、社会で起こる事象を構造的に捉えた視点やフィクションとノンフィクションを交錯させる編集力、写真媒体の活用の巧みさなどが評価され、グランプリを受賞しました。

本展では、2019年から約3年間にわたり千賀がリサーチしてきた特殊詐欺を取り巻く社会構造や個人々人をテーマとし、写真、映像を含むインスタレーション作品を展示します。特殊詐欺の被害額が最大となった2014年から、千賀が初めてこのテーマで作品を発表した2021年まで被害は減少傾向にありましたが、コロナ禍を経て2022年には8年ぶりに増加しました。本展では、被害が増加した背景にある社会や時代の変遷から影響を受けた個々の生活の変化に焦点を当てます。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、温かいご支援、ご協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

アートセンター BUG



BUG

アーティストステートメント

特殊詐欺はまるで社会の状況を映し出す鏡のようだ。行動原理、搾取の構造、騙し合い、そこに映っているのは私たち自身だ。

「この間、100万円とられたんや」
叔母の言葉を親族皆で聞いた時、目の前に出現した鏡に映る姿を僕は突然見つめる事になった。クレジットカードを奪った男の顔は叔母しか知らない。一体どんな人物がそれを行なったのか、想像の中には悪人が映っていた。見えない加害者はそのお金を何に使ったのだろうか。出所不明のお金はこの社会の中で誰かをきつと喜ばせただろうし、もしかしたら巡り巡ってそのお金は今僕の財布の中にあるかもしれない。制作の中で私は数々の被害者や加害者を演じ、その痕跡を撮影した。そこに写るものと本物の違いは私には分からなかった。

2019年以降、個々の経済的困難が社会全体に広がった。「国は助けてくれないし、自分でなんとかするしかない」という絶望的な声が、社会の中でささやかれる。経済的困窮が続く中で、人々は限られた選択肢しか持たず、その結果、特殊詐欺が社会に蔓延する土壌が整っていった。私自身、また友人の中にも生活に苦しんでいた人は多く、中には最後の手段として闇バイトが頭をよぎったという話も聞いた。

実際、詐欺被害は2022年に8年ぶりに増加し、その後も増え続けている。そして、2023年までに約25万人の高齢者が被害に遭い、約2万5000人の若年層が犯罪者になった。彼らが望んだ平穏な日々と豊かな暮らしは被害総額6500億円に変換され、消費され、社会を回した。この状況は、闇バイトが単なる犯罪行為である以上に、社会が生み出した経済的問題の象徴であることを示唆している。それらは混ざり合い、私たちの姿を形成している。

2020年9月、「まず、自分でやってみる」という言葉には国の顔がついていた。そしてそれは背景から切り離され、自己責任の記号として最も強く私たちに刻まれた。スマホに表示される受け子逮捕のニュース。元保育士の人物は「1か月以上仕事なかったの、闇バイトを探した」と語った。画面のこちら側にいる私と向こう側にいる人物は一体何が違うのか、そこに引かれた境界線は明確なものではないかもしれない。

特殊詐欺は社会を映し出す鏡、映し出されるのは私たち自身の姿だ。

千賀健史

千賀 健史 / Kenji CHIGA

1982年滋賀生まれ。2008年大阪大学基礎工学部卒業。第16回写真「1_WALL」グランプリ、第44回キャノン写真新世紀優秀賞、第8回大理国際写真展最優秀新人写真家賞を受賞。また、アルル国際写真祭 The Luma Rencontres Dummy Book Award Arles2019,2022 ショートリスト入り。

主な展覧会に、第16回写真「1_WALL」グランプリ個展“Suppressed Voice”(ガーディアン・ガーデン、2018)、「写真新世紀展2021」(東京都写真美術館、2021)、千賀健史個展“Hijack Geni”(Reminders Photography Stronghold、2022)、プリビクテジャパンアワード「Fire & Water」(東京都写真美術館、2022)がある



インタビュー
(7分)



フルインタビュー
(20分23秒)

関連イベント

千賀健史個展「まず、自分でやってみる。」の関連イベントとして、以下のイベントを開催。

※詳細は BUG ウェブサイトをご確認ください。

トークイベント：永井玲衣(哲学対話のひと) × 千賀健史(本展出品アーティスト)

2024年3月15日(金)

会場：BUG、ライブ配信



会場参加



ライブ配信

トークイベント：中村史子(大阪中之島美術館主任学芸員) × 千賀健史(本展出品アーティスト)

2024年3月29日(金)

会場：BUG、ライブ配信



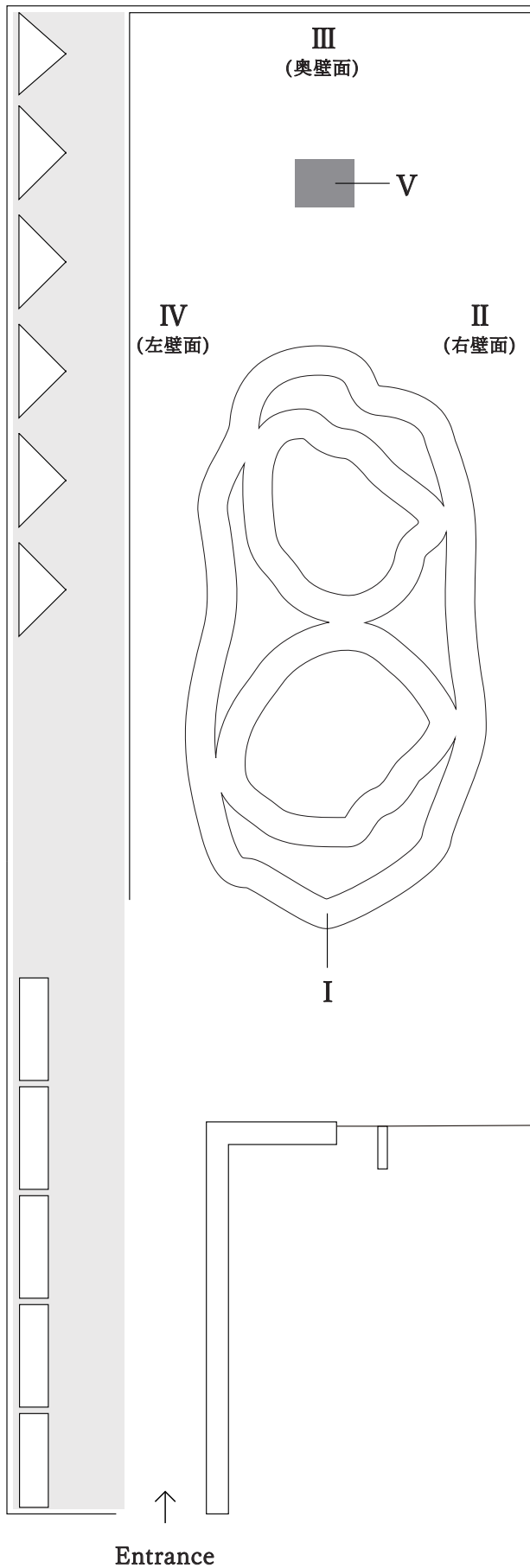
会場参加



ライブ配信

・作品リスト

各作品について、作品名/制作年/素材/サイズを記した。全て作家蔵。



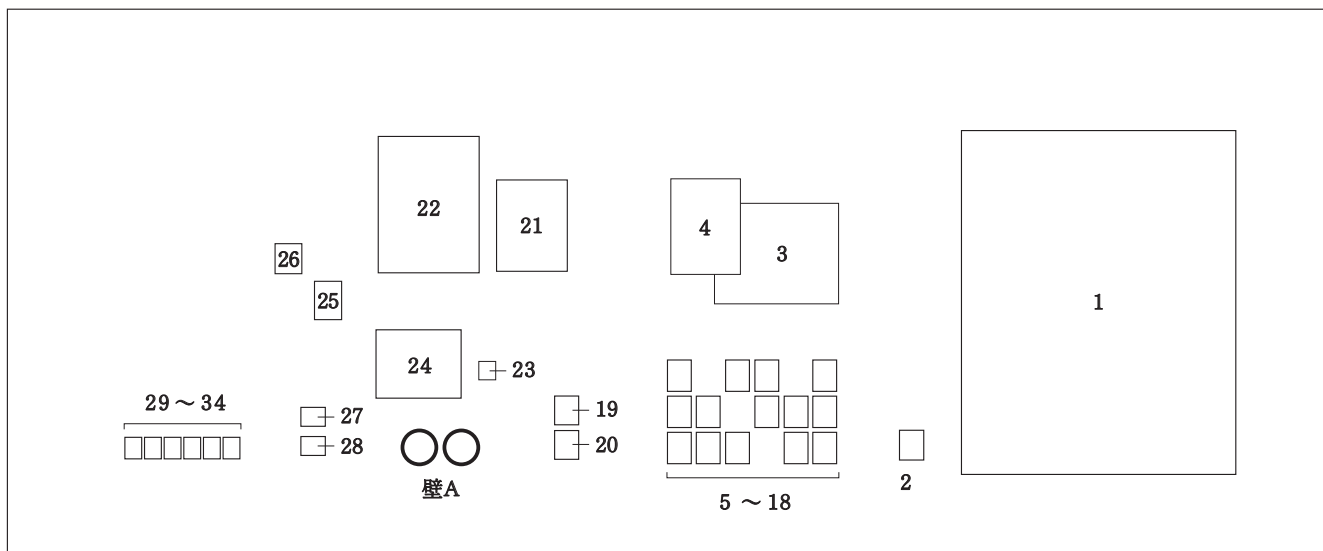
I
Circuit of life
2024
約400×800 cm
カッティングシート

終わりがなければ始まりもない。永遠とも思える円環の日々の中で様々な思考や体験に巡り合います。出たサイコロの目は偶然か？自己責任か？本作はプレイヤーと非プレイヤーとの間で起こる関係性も含めた体験型の作品です。

II～IV
次ページ以降参照

V
HIJACK GENI
2022
19.7×26.2×4.8cm
紙にレーザープリント、
PUR (ポリウレタン反応性ホットメルト接着剤) を使用して製本

II (右壁面)



1
無題
2024
360×450 cm
ターポリン

私たちが欲しいもの。中心にあるものは歪んでしまったそのもの。

2
無題
2023
38×45.5×2 cm
木製パネル、
水溶紙に顔料インクとレーザープリント

3
FILE_07
2024
162.5×130 cm
紙に顔料インクでプリント

4
20190329
撮影年2019
94×125.3 cm
紙に顔料インクでプリント

タイを拠点に活動していた特殊詐欺グループ。彼らが使用していたパソコンの画面には、千賀の実家付近の地図が表示されていた。

5 ~ 18
まず、自分でやってみる。(B)~(O)
2024
31.8×41×2 cm
木製パネル、
水溶紙に顔料インクでプリント

特殊詐欺グループが多用する完全な証拠隠滅の手法に則って、水溶紙に印刷された写真(事実)を溶かして制作。写真は千賀自身の顔を元に作成された被害者像と加害者像を使用している。

19
痕跡 #02
2024
38×45.5×2 cm
木製パネル、水溶紙に顔料インクとレーザープリント、レジン

名残すら残さないほどに証拠隠滅された写真群(千賀が扮したポートレート)。事実は社会の中に隠匿されるが、それは決して無かったことにはならず、様々な痕跡となって残る。

20
痕跡 #01
2024
38×45.5×2 cm
木製パネル、
水溶紙に顔料インクと
レーザープリント、レジン

21
FILE_06
2024
97.6×122 cm
紙に顔料インクでプリント

22
無題
2023
133×183 cm
紙に顔料インクでプリント

分業制によって形作られる人物像をいくつかの方法で制作している。

23
痕跡 #04
2024
22×27.3×2 cm
木製パネル、水溶紙にレーザープリント

24
無題
2024
112.5×90 cm
紙に顔料インク

写真の上にベタベタと指紋がついている。指紋は捜査でも使用される情報であり、個人を象徴する。

25
痕跡 #03
2024
31.8×41×2 cm
木製パネル、
水溶紙に顔料インクでレーザープリント

26
まず、自分でやってみる。(A)
2023
43×53×2 cm
木製パネル、
水溶紙に顔料インクとレーザープリント

27
Lack with money (A)
2024
30×24×4 cm
紙に顔料インクでプリント、アルミ、
アクリル額装

28
Lack with money (B)
2024
30×24×4 cm
紙に顔料インクでプリント、アルミ、
アクリル額装

SNSで活動する詐欺師は、人々の関心を集めるために大量の紙幣を使用する。それは時に他人の写真の盗用であったり、偽物の紙束であったりするが、嘘だろうとわかっているにもかかわらず「もしかしたら・・・」と考えてしまう自分がある。

29 ~ 34
未必の故意 (A)~(F)
2024
21×26×3 cm
紙に顔料インクでプリント、アルミ、
アクリル額装

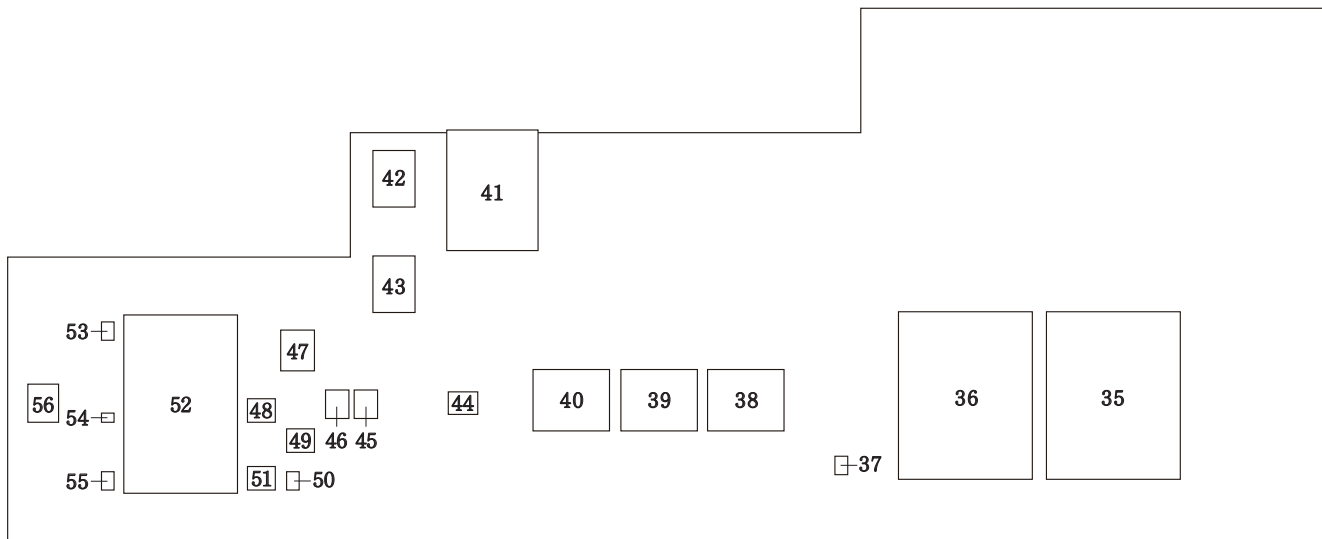
「封筒に入っていたものは何であったのか？」透視能力を持たない私たちは、それを触ることで直感する。そして触覚により、未必の故意*が生じることもある。本作ではネガフィルムをスキャンする手法を利用した。

*積極的に罪を犯す気はないが、自らの行動によって犯罪が起こる可能性を自覚 / 容認している状態。

III (奥壁面)

132 Monuments
2024
各13.9×17.9 cm
木製パネル、水溶紙にレーザープリント

IV (左壁面)



35
 まず、自分でやってみる。(P)
 2024
 130×162×3 cm
 木製パネル、
 水溶紙に顔料インクでプリント

36
 痕跡 #05
 2024
 130×162×3 cm
 木製パネル、
 水溶紙に顔料インクとレーザープリント

37
 無題
 2024
 13.5×19 cm
 紙に顔料インクでプリント、レジン

38
 FILE_09
 2024
 80×64 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

39
 FILE_05
 2024
 80×64 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

40
 FILE_01
 2024
 80×64 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

奥行きを持たず、通常は表面しか写すことのできないスキャナー。本作ではネガフィルムをスキャンする際に用いる透過光を利用し、その裏側まで見ようとする。特殊詐欺のリーサーチから得たキーワードをもとに集められた数々の証拠品。これはどんな人物像を示すのか？浮かび上がる姿は、私たちがキーワードによって作り上げる架空の存在であり、私たちの思考の反映でもある。

41
 無題
 撮影2014
 120×186.7 cm
 紙に顔料インクでプリント

42
 祖母
 2021
 43.5×59×5 cm
 紙に顔料インク、タモ、鏡、アクリル

43
 母
 2021
 43.5×55×5 cm
 紙に顔料インク、タモ、鏡、アクリル

44
 食卓
 2024
 30×24 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

45
 FILE_03
 2024
 24×30×2 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

46
 FILE_08
 2024
 24×30×2 cm
 紙に顔料インクでプリント、アルミ、
 アクリル額装

47
FILE_02
2024
24×30×2 cm
紙に顔料インクでプリント、アルミ、
アクリル額装

48
無題
2024
27×21.6×3 cm
紙に顔料インクでプリント、ベニヤ、タモ、
アクリル

49
無題
2024
27×21.6×3 cm
紙に顔料インクでプリント、ベニヤ、タモ、
アクリル

50
無題
2024
13.5×19 cm
紙に顔料インクでプリント、レジン

51
無題
2024
27×21.6×3 cm
紙に顔料インクでプリント、ベニヤ、タモ、
アクリル

52
Eco system
2022
120×186.7 cm
紙に顔料インクでプリント

53
無題
2024
13.5×19 cm
紙に顔料インクでプリント、レジン

54
無題
2024
10×7 cm
紙に顔料インクでプリント

55
無題
2024
13.5×19 cm
紙に顔料インクでプリント、レジン

56
鏡
2024
32×40×3 cm
紙に顔料インクでプリント、アルミ、
アクリル額装

千賀健史個展「まず、自分でやってみる。」

会期：2024年3月6日（水）－ 4月14日（日）

主催：BUG

協力：キャノン株式会社

キュレーション：野瀬綾（BUG）

運営・制作：飯野優美（BUG）

広報：桑間千里（BUG）

告知物デザイン：加瀬透

翻訳：川田康正、ベン・ケーガン（Art Translators Collective）

会場撮影：田凱

インタビュー・会場映像撮影：岡本 裕志

サイコロアプリ制作：遠竹悠

設営：HIGURE 17-15cas 小西恵、山際悠輔、寺田鵬弘、小村優花

HOW TO PLAY | スゴロクの遊び方



- 1 スマートフォンでQRコードを読み込んでください
- 2 「サイコロをふる」ボタンを押してください
- 3 出た目が「1か2ならAコース」、「3か4ならBコース」、「5か6ならCコース」の好きなマスからスタート
- 4 好きなマスを決めたら、そこから時計回りに進んでください

RULE | ルール

- 「STOP」と表記されたマスでは必ず立ち止まり、テキスト内容に従ってください
- このスゴロクにゴールはありません。立場や考えの異なる3つの属性の人々が、日々繰り返す自問自答や心的心声を体験してみましょう

さあ、サイコロをふって進んでみましょう！

